水は大切

浅口市・金光小5年
坂本夕理さん

「飛行機でもないのに空を飛んで、川でもないのに水だらけってなーんだ？」
私が朝起きると、お母さんが聞いてきました。

起きたばかりでボーっとしていましたが「雲」と答えると「すごい、正解。」「でもなんで急になぞなぞ出すの？」「今日の新聞にのってたんよ。」それが七月三十日の朝の会話でした。

私もさっそく新聞記事を読んでみました。そして「入道雲って地方によっていろいろなよび方があって、〇〇太郎とよばれるらしいよ。」と言うと、「この地域は〇〇太郎とは言わないけど、ひがさきおどりは雨ごいのおどりらしいよ。」とお母さんが教えてくれました。

夏休みに入りもう暑日が続き、熱中症けいかいアラートまでついに発令されるようになりました。空を見上げるとギラギラと太陽が照り、雲がほとんどない日が多く、ニュースでは水不足の話題がつきません。

また2025年は梅雨明けが非常に早く、雨が全くと言っていいほど降っていません。外に一歩でれば「暑い」という言葉しか出ず、汗をかくとすぐにシャワーを浴びたくなってしまいます。水がいつ自由に使えなくなるか分からないので、家族でどのような節水ができるか考えてみました。

「水をだしっぱなしにしない。」「バケツに水をためてから必要な量の水を使う。」「おふろの水をバケツに入れて畑や道路にまく。」「洗たく機を使う回数を少なくする。」などのアイデアがでてきました。私たちの生活にとって水はとても大切なんだと改めて感じ、ぜひ実行していきたいと思います。

まだまだ暑い日が続きそうです。てるてるぼうずをさかさまにひっくり返したふれふれぼうずをかざり、みんなが困らないぐらいの雨がふりますようにと願いました。

この願いが空にとどきますように。

滴一滴

なぞなぞである。ラトビアでは「青い野原を駆ける真っ白な子ヤギたちはなあに」。イスラエルでは「飛行機でもないのに空を飛んで、川でもないのに水だらけ」。「世界なぞなぞ大事典」（大修館書店）から引いた。さて答えは▼「雲」だ。ベネズエラでは「私はどんどん膨れ、泣いて重荷を下ろす」。世界各地で、さまざまに形容されるのが面白い▼夏らしさを表す雲といえば積乱雲だろう。青い空に、もくもくと立ち上る姿は雄々しく、すがすがしい。妖怪の大入道にも見えるため入道雲と称されることも▼入道雲には日本の地名などを冠した呼び名もある。例えば、関東地方では坂東太郎、京阪地方では丹波太郎、九州地方では比古太郎といった具合だ。特徴があり、誰もがよく知る雲なので、親しみを込めた名があるのかもしれない▼そんな呼び方からは、のんびりしたイメージを抱かせるが、実際は大気の状態が不安定な気象条件で発生しやすくなる。一説によると、非常に発達した一つの積乱雲に含まれる水の量は、一般的な家庭の浴槽で3千万杯分もあるとか。次々に発生する積乱雲が連なって大量の雨を降らせる線状降水帯はやはり怖い▼酷暑が続く。梅雨明けが早かったこともあり、水不足も懸念される。〇〇太郎さんよ、ここはどうか、程よい量の雨を降らせてはくれないか。　2025・7・30

2025年7月30日付、山陽新聞

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。